

肝炎対策推進計画の骨子案について検討が始まる

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会

- 日時 平成29年2月25日（土） 午後2時～午後3時10分
- 場所 鳥取県東部医師会館 鳥取市富安
- 出席者 21人
岸本対策委員長
芦田・岡田・岡野・影山・陶山・瀬川・永原・藤井・前田・松木・
松田・的野・満田・村脇・山田各委員
県健康政策課がん・生活習慣病対策室：村上室長、米田課長補佐
蔵内課長補佐
健対協事務局：岩垣係長、田中係長

【概要】

・平成27年度肝炎ウイルス検査受診者数は7,179人で、受診率は3.7%、平成26年度に比べ、受診率が0.4ポイント減少した。検査の結果、HBs抗原のみ陽性者は112人（陽性率1.6%）、HCV抗体のみ陽性者は20人（陽性率0.3%）である。

また、平成7～9年度の検診時において、市町村から報告のあった対象者数192,315人に対し、平成7～27年度の20年間の受診者は受診者数148,446人、推計受診率77.2%で、そのうちHBs抗原陽性者は3,369人（陽性率2.27%）、HCV抗体陽性者は3,690人（陽性率2.49%）である。

・「鳥取県肝炎治療特別促進事業実施要綱」

の一部が改正され、前回専門委員会以降、C型慢性肝炎患者に対する①新薬ヴィキラックス配合錠及びレベトールカプセル併用療法、②エルバスビル及びグラゾプレビル併用療法が保険適用となり医療費助成制度対象が拡大されたことが報告された。

・鳥取県肝炎対策推進計画の骨子案について、本日の肝炎対策協議会において、新たな計画の項目整理、数値目標の設定、国の新たな基本指針を踏まえ、新計画に取り入れる新たな要素などについて検討が行われたことが報告された。

挨拶（要旨）

〈岸本対策専門委員長〉

本県は肝臓がんによる死亡率が全国に比べ非常に高いことから、精密検査未受診者の改善を図るために、平成26年度より肝炎ウイルス精密検査費助成事業を行っているが、それが、十分に利用されているとは言えない。今後共、色々な方法を考案して、未受診者の解消を図りたいので、引き続き、ご協力の程お願いする。

また、平成20年度から開始したウイルス肝炎治療助成の新規申請者数の推移を見てみると、B型肝炎は毎年百数十人が認定され、C型肝炎においては、新薬の登場により平成27年度は527人、平成28年度は302人の方が認定を受けており、その中には治療終了の方もいる。しかしながら、鳥取県の肝臓がん患者がどんどん減っているというところまでは至っていない。肝臓がん発生の抑制のためには、治療中、治療後のフォローアップも是非必要であるので、各地区医師会とも協力していただき、事業の推進をお願いする。

報告事項

1. 平成27年度肝炎ウイルス検査実績報告並びに平成28年度事業実績見込み及び平成29年度実施計画について：

蔵内県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

(1) 平成27年度肝炎ウイルス検査

平成27年度は19市町村で実施し、対象者数

196,150人のうち、受診者数は7,179人で、受診率は3.7%で、平成26年度に比べ、受診者数が1,142人、受診率が0.4ポイント減少した。平成23年度より国が40歳以上5歳刻みの方を対象にした無料クーポン券事業を導入したこと等により受診者数は増加傾向であったが、平成27年度は減少した。

検査の結果、HBs抗原のみ陽性者は112人、HCV抗体のみ陽性者は20人で、HBs抗原陽性率1.6%で、平成26年度に比べ0.1ポイント増であった。また、HCV抗体陽性率0.3%で平成26年度と同率であった。

要精検者132人のうち精検受診者は82人であり、精検受診率は62.1%で、平成26年度に比べ2.6ポイント減であった。精検の結果、がんが1人発見され、がん発見率は0.02%であった。72.0%は無症候性キャリアであった。

(2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対するの定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は15市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導対象者 (人)	定期検査受診者数 (人)	定期検査結果 (人・%)			
			慢性肝炎	肝硬変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,710	877	160 (18.2)	9 (1.0)	3 (0.3)	3 (0.3)
C型肝炎ウイルス陽性者	779	355	162 (45.6)	14 (3.9)	2 (0.6)	4 (1.1)

肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

(3) 平成7～27年度の20年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において、市町村から報告のあった対象者数192,315人に対し、受診者数148,446人、推計受診率77.2%である。そのうちHBs抗原陽性者は3,369人（陽性率2.27%）、HCV抗体陽性者は3,690人（陽性率2.49%）であった。

年代別でみると、平成7～27年度平均HCV抗体陽性率は60歳以上が高く、HBs抗原陽性率は45歳～55歳代が高い傾向である。

(4) 平成28年度実施見込み及び平成29年度実施計画について

平成28年度の受診予定数は国庫事業の肝炎ウイルス検査は19市町村実施で7,445人、市町村単独事業は6町実施し696人の見込みである。

平成29年度実施計画は国庫事業の肝炎ウイルス検査は19市町村実施で7,784人、市町村単独事業は6町実施で944人を計画している。

以上の報告に対して、以下の質問等があった。

肝臓がん検診事業が開始され、約20年間経過しているが、肝炎ウイルス検査の精検受診率が約60%で推移しており、一向に改善されていないので、対策が必要ではないか。市町村の保健師からは、精密検査登録医療機関に受診されても、精検紹介状を市町村に報告されていないケースもあるので、必ず、精検紹介状を市町村に提出していただくよう啓発する必要があると聞いていると話があった。

2. 平成27年度肝臓がん検診発見がん患者確定調査結果について

現在、調査中である。来年度からは、松田委員に代わって、孝田委員に集計解析をお願いすることとなった。

3. 「鳥取県肝炎治療特別促進事業実施要綱」の一部改正について：

蔵内県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

前回専門委員会以降、C型慢性肝炎患者に対する①新薬ヴィキラックス配合錠及びレボトルカプセル併用療法、②エルバスビル及びグラゾプレビル併用療法が保険適用となり医療費助成制度対象が拡大したことに伴い、「鳥取県肝炎治療特別促進事業実施要綱」の一部が改正されたことについて報告された。また、2月15日付けで新たにC型肝炎患者に対するジメンシー配合錠、B型肝炎患者に対するベムリディ錠が保険適用となったことにより、直近中に実施要綱の改正が行われることについて併せて報告された。

4. 平成28年度肝炎ウイルス検査の結果について：

蔵内県健康政策課がん・生活習慣病対策室課長補佐

保健所においては、平成28年度実績は、平成29年1月現在でB型肝炎検査108件、C型肝炎検査109件で、そのうちB型陽性者が4人で、陽性率は3.7%、C型陽性者は0人であった。

医療機関においては、平成28年度実績は、平成28年12月現在でB型肝炎検査316件、C型肝炎検査316件で、そのうちB型陽性者が2人で、陽性率は0.6%、C型陽性者が1人で、陽性率は0.3%であった。

県・市町村が実施する肝炎検査で陽性と判定された方を対象に、医療機関で初回の精密検査の費用の助成を受けた方は、平成28年度は、12月現在で17人であった。

平成27年度より開始した肝炎定期検査費用（年2回を限度）助成を受けた方は、平成28年度は、12月現在で8人であった。

5. 肝炎治療特別促進事業の認定状況について：
蔵内県健康政策課がん・生活習慣病対策室課
長補佐

平成20年4月から平成29年2月現在での新規受給者は、B型肝炎は1,240件、C型肝炎は1,830件であった。C型肝炎は、昨年度から相次ぐ新薬の登場で、件数が大幅に増加していたが、ここ数か月の申請状況を見ると、増加傾向については終息した感がある。

6. 鳥取県肝炎対策推進計画の骨子案について：
蔵内県健康政策課がん・生活習慣病対策室課
長補佐

現在の「鳥取県肝炎対策推進計画」は、平成29年度で計画期間が終了することにより、国の新たな基本指針を踏まえ、平成29年度中に新たな計画を改定する予定。

本日の肝炎対策協議会において、新たな計画の項目整理、数値目標の設定、国の新たな基本指針より新計画に取り入れる新たな要素などについて検討が行われたことが報告された。主な改定内容は下記のとおりであり、下記内容を取り入れた新たな計画案を来年度、夏の専門委員会でも報告することとされた。

1. 全体目標について

計画内容を検証するためにも、何らかの指標は必要であり、精検受診率、肝がん罹患率などを指標として、5～10パーセント減など、目標として取り入れる。

2. 肝炎の予防及び肝炎医療の推進の基本的な方向

国の新たな指針に準じ、肝硬変、肝がんへ

の移行者を減らすこと、肝がんの罹患率を出るだけ減少させることなどは基本的な考え方として取り入れる。

職域での肝炎ウイルス検査の促進、検査陽性者の受診勧奨、フォローアップ体制の整備に取り組むことを強調する。

3. 肝炎の予防のための施策

B型肝炎ワクチンの定期接種の推進を追記する。

4. 肝炎検査の実施体制の充実

肝炎医療コーディネーターの活用を明記する。また、肝炎医療コーディネーター等を活用した普及啓発等の個別の受診勧奨等の推進について明記する。

5. 肝炎医療を提供する体制の確保

肝疾患連携拠点病院の役割等について明記する。肝疾患患者の就労支援への取組強化について明記する。

6. 肝炎の予防及び肝炎医療に関する人材の育成

肝炎医療コーディネーター等の人材育成について明記する。ただし、コーディネーターの位置づけは明確にしておく。

7. 肝炎に関する啓発及び知識の普及並びに肝炎患者等の人権の尊重

国の研究成果を元に、肝炎患者等に対する偏見や差別の被害防止に向けた具体的な方策を検討し、取組を進めていくことを明記するなど。

肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会

日時 平成29年2月25日（土）
午後3時30分～午後5時20分
場所 鳥取県東部医師会館 鳥取市富安
出席者 85名
(医師：84名、看護師・保健師：1名)

岡田克夫先生の司会により進行。

講演

鳥取県健康対策協議会肝臓がん対策専門委員会
委員長 岸本幸廣先生の座長により、鳥取赤十字
病院 第4内科部長 満田朱理先生による「慢性
C型肝炎の治療がIFNフリー DAAs治療の時代に

なっって～今後のHCC診療とは～」の講演があつた。

症例検討

前田和範先生の進行により、3地区より症例等を報告して頂き、検討を行った。

1) 東部症例（1例）：鳥取赤十字病院

三村憲一先生

2) 中部症例（3例）：鳥取県立厚生病院

永原天和先生

3) 西部症例（2例）：山陰労災病院

西向栄治先生

鳥取医学雑誌への投稿論文を募集致します

「鳥取医学雑誌」は、鳥取県医師会が発行する「学術雑誌」で年4回発行しています。締切日は設けておりません。「受理」となった論文は、発行月に最も近い医学雑誌へ掲載いたします。投稿にあたっては、鳥取医学雑誌に掲載している「投稿規定」をご覧ください。「興味ある症例」（質疑応答形式；2頁）欄への投稿も併せて募集致します。

優秀な論文には、「鳥取医学賞」が贈られます。

「鳥取医学雑誌 新人優秀論文賞」

この賞の対象は、筆頭著者が卒後5年までの医師で、原則として鳥取県医師会会員です。平成25年発行の第41巻から適用いたします。

会員各位の日常診療の参考となる論文のご投稿をお待ちしております。

「投稿規定」類のご請求、およびご不明な点は鳥取県医師会・鳥取医学雑誌編集委員会へお問い合わせ下さい。

〒680-8585 鳥取市戎町317 鳥取県医師会内・鳥取医学雑誌編集委員会

TEL 0857-27-5566 FAX 0857-29-1578

E-mail igakkai@tottori.med.or.jp